

一般社団法人 ヘルスケア・データサイエンス研究所

研究助成 成果 **概要** 報告書

(成果・概要のいずれかに○をつけてください)

助成年度	2024 年度
本研究期間	2024 年 12 月 1 日～2025 年 7 月 31 日
氏名	後藤和哉
所属機関名 (助成決定時)	京都大学大学院医学研究科皮膚科学 京都大学皮膚科大学院医学研究科社会医学系専攻医療疫学分野
職位・学位	助教
研究タイトル	アレルギー疾患を有する母体における妊娠中の抗ヒスタミン薬処方と出生児の熱性けいれんの関連： 大規模データベースを用いた縦断的研究
キーワード	抗ヒスタミン薬、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、熱性けいれん
研究概要	アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、アレルギー性鼻炎といったアレルギー疾患の有病率は世界的に高い。妊婦の有病割合も高く、日常生活に与えるインパクトは非常に大きい。実臨

床においては、アレルギー症状（かゆみ、鼻汁など）を改善するために、経口ヒスタミン H1 受容体拮抗薬（以下、抗ヒスタミン薬とする）が継続的に処方されている。

一方、小児で抗ヒスタミン薬の使用と熱性けいれんのリスクと関連が指摘されている。更に、妊婦の経口抗ヒスタミン薬使用が児に与える影響に関しては、熱性けいれんを含む副作用全般に関するエビデンスが不足している。

そこで本研究では、母子の紐付けが可能な大規模データベースを用いて、妊娠中の抗ヒスタミン薬の処方が出生児の熱性けいれんのリスクに与える影響を縦断的に検討する。